

# City Life NEWS

地域の出来事や暮らしに密着した情報を届けるニュースページが始まります。ネットには更新頻度の高い地域ニュースページがあります。ぜひアクセスしてください。



シティライフNEWS で検索

## 2018年吹田操車場跡地が 世界トップクラス『**健都**』へ 健康・医療のまち

吹田操車場跡地で  
始まった  
まちづくりの背景

1 984年の吹田操車場の機能廃止後、吹田市と摂津市にまたがる約50haもの広大な土地が残った。当初から吹田市ではまちづくりの計画があったが、一方で1987年、国鉄の民営化に伴い、当時国鉄が抱えていた巨額の債務返済のために、梅田にあった貨物駅（現在のグランフロント）を移転して更地にし、売却することが決定。駅機能の半分の移転先となったのが現在の吹田操車場跡地である。その後2006年2月、吹田市と摂津市を含む関係5者によって着手合意協定書が締結され、跡地のうち**27.2haに吹田貨物ターミナル駅を建設、残りの23haをまちづくり用地として活用する計画が決定した。**

同年11月、吹田市と摂津市がまちづくり計画委員会を設置。まちづくりには緑豊かで健康的かつ教育的な機能を目指すとする全体構想が打ち出された。また、民間に向けてアイデア募集のコンペを実施。健康増進や子育て支援など、市民や研究者から集まった多様な提案をふまえ、2009年3月に「**緑と水につつまれた健康・教育創生拠点**」を目指す基本計画が策定された。

国立循環器病研究センター  
2018年を目途に移転

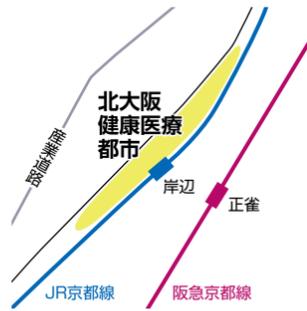
**健** 康をコンセプトとしたまちづくりを加速させたのが、国立循環器病研究センター（=以下国

循）の移転だ。国循は1977年に設立された、脳卒中や心疾患などの循環器病を専門とする**日本で唯一の医療・研究機関**。移転は建物の老朽化や設備拡大によるもの。当初は現地での建て替え案もあったが、資材の高騰もあり一時中断、その後公募により用地の選定を行うことになった。操車場跡地は新大阪駅や名神高速など幹線道路からも近いため、全国から訪れる患者や研究者の交通利便性が高まると期待され、吹田市に決定した。

この移転を契機に、健康寿命の延伸を目指すまちづくりが本格的に始動。2015年には吹田操車場跡地が「**北大阪健康医療都市**」と命名され、今後「**健都**」という愛称で健康・医療に力をいれた特徴的なまちづくりが進められていく。

世界でもトップクラスの  
複合医療産業拠点の形成

**市** 立吹田市民病院もまた、建て替えに伴う移転が決定した。国循と同院は、JR岸辺駅前の駅前複合施設をはさんで隣接することになる。今後**両者が密な連携をはかる**ことで、国循の患者に循環器系以外の疾患を伴う合併症が発症した場合でも迅速な対応が可能となる。また、共同研究や研修の共同開催、医療機器やドクターカーの共同利用なども検討されており、医療の質が高まるとともに運営の効率化も期待できる。さらに、高齢者向け住宅や健康志向のスーパー、企業の研究開発拠点となるイノベーションパーク等が併設される予定で、**世界でもトップクラスの複合医療産業拠点**が



整備されたJR岸辺駅

北摂に生まれる。未病から治療、研究開発、介護施設までを備えた健都が、全国、さらに世界に向けて最先端の健康医療を発信する地になると期待されている。

マクドナルドハウスの移転  
2億円の寄付を募る

**ド** ナルドマクドナルドハウス（おおさかすいたハウス）は、入院する子どもに付き添う家族のための滞在施設で、ボランティアと寄付によって運営されている。この国循の移転に伴い、ハウスもまた移転の必要性が生じている。そこで吹田市は、より多くの寄附が集まるよう効果的なPRを行うため、経済団体や医療関係者を委員とした委員会を設けた。移転に必要な約3億5000万円のうち、吹田市が現施設を買い取ることで賄える費用を差し引いた2億円を目標に、吹田市は全国に寄付を募ることを決定した。寄付については吹田市のホームページに公開されている。問合せは吹田市北大阪健康医療都市推進室、電話06-6318-6317まで。

- 大正12年 吹田操車場 操業開始
- 昭和59年 東洋一の規模を誇る物流拠点に操車場の機能を廃止。信号場となる
- 昭和62年 旧国鉄分割・民営化、国鉄清算事業団発足
- 平成11年 梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転計画に関する基本協定書及び確認書の締結（梅田貨物駅機能の半分を吹田操車場跡地に）
- 平成16年 梅田貨物駅機能の残り半分の移転先について、大阪市内「百済」駅を改修し、整備する案が明らかになる
- 平成18年 吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業の着手合意協定書の締結
- 平成20年 経済界、学識経験者、行政が中心となる「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」設置「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」を策定、まちづくり基本方針～「みどり」と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出
- 平成21年 「東部拠点のまちづくり計画」策定 国立循環器病研究センターに吹田操車場跡地での事業展開について検討を依頼
- 平成24年 国立循環器病研究センター建替構想委員会において吹田操車場跡地への移転誘致に関するプレゼンテーションを実施 JR岸辺駅北交通広場・南北自由通路供用開始 市立吹田市民病院の吹田操車場跡地への移転建替を決定
- 平成25年 吹田貨物ターミナル駅開業 国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転が決定 国立循環器病研究センター、吹田市、摂津市、UR都市機構でセンターの移転に関し基本協定書を締結
- 平成26年 「健康・医療のまちづくり」基本方針の策定 関西イノベーション国際戦略総合特区への区域追加が承認される
- 平成27年 吹田操車場跡地まちづくり実行計画の策定 吹田操車場跡地地区低炭素まちづくり計画の策定 イノベーションパーク（仮称）利用基本計画の策定

健都イノベーションパーク

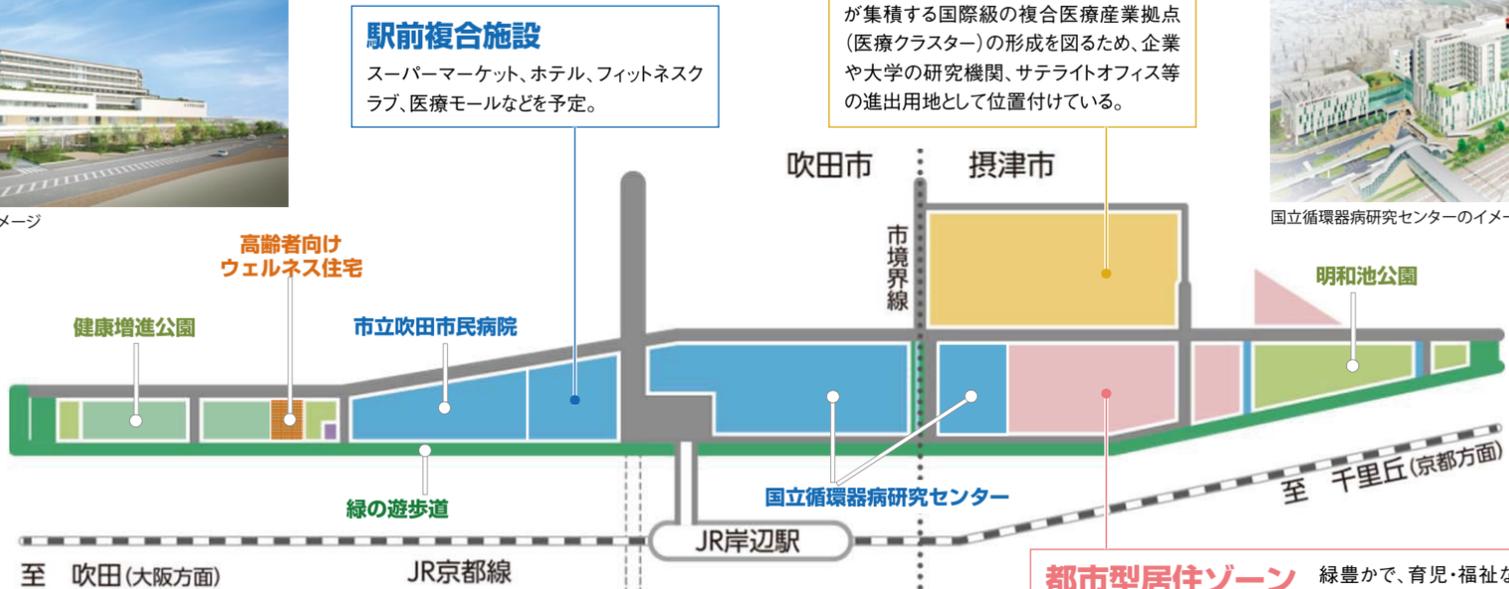
医療及び健康関連の研究機関や企業等が集積する国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）の形成を図るため、企業や大学の研究機関、サテライトオフィス等の進出用地として位置付けている。



国立循環器病研究センターのイメージ



市立吹田市民病院のイメージ



都市型居住ゾーン

緑豊かで、育児・福祉などの生活支援施設や、生活利便施設の導入。また、防災機能を備えた公園や、市民の交流施設の導入が予定されている。

※図・写真提供：吹田市